



Amihari
visitor center

Vol.117

2024.11



できるだけ目立たぬよう…

カモフラージュの達人

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

柵に同化していた“オツネトンボ”

遠くまで見通しがよくなるほど、日に日に進む落葉が晩秋を感じさせるある日、散策路のデッキロードでオツネトンボに出会いました。この時期はガガンボやフユシャクの仲間など、どちらかと言えば飛翔力があまり強くない昆虫を目にする機会が多くなり、この時も音もなく逆光の中飛んできて柵の上に止まったオツネトンボを「ガガンボ？」と勘違いしてしまうほど儂げな印象でした。カフェモカ色の体の線はイトトンボの名の通り細長く、閉じた翅も一直線で目を離してしまうとすぐに見失ってしまいそうです。トンボの特徴の頭の大半を占める大きな複眼を見て、ようやく「トンボだったか」と認識できました。よく見れば肉食の証でもある鋭い棘が、歩くことが苦手な細い脚に規則正しく並んでいました。トンボは長い冬を卵かヤゴで過ごす種類が多い中、オツネトンボは成虫のまま樹皮の下や建物の隙間などで春を待ちます。「こんなに、か細い体で半年近くも続く寒さや乾燥、時には吹雪などの過酷な環境に耐えられるの？」と疑問が湧き起こりましたが、この場所にこうして存在しているのが何よりの証拠。春が来ればすぐに活動を始め、競争相手があまりいない中でより多くの食べ物を捕り、相手を見つけて卵を残すことができる…。見た目からは想像もつかない底知れぬ忍耐力を感じさせられた出会いとなりました。

What is “Otsunentonbo”?

「成虫越冬するトンボ」

アオイトトンボ科
体長：約 35～41mm
分布：北海道～九州

成虫越冬する3種の内の1種。他にホソミオツネトンボ、ホソミイトトンボがいる。冬を越して成熟したオスの複眼背面は青みを帯びるが、体色は淡褐色のままあまり変化しない。成虫は氷点下の低温にも長期間耐えることができる。

(参考図書：「日本のトンボ」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
いろ いろ

No. 4

紅葉も一段落し、カラフルだった落ち葉が茶色に変わりつつある網張の森に、冬型の気圧配置がもたらす初雪が届けられました。

白銀のもたらすものは、様々なものを覆い隠すだけではなく、雪の隙間から見えるものを際立たせてくれます。風と雪、時折の陽射しが入り混じる不安定な天候の中、積もった雪が消えないうちに森へ向かう事にしました。



初冬の森をゆっくり歩くと、奥ゆかしい色が見え隠れする。



休暇村に滞在していた台湾からの旅行者たちは、地元ではほとんど見られない雪景色に歓声をあげていたそうです。雪には日常を非日常に変える魔法のような力がある気がします。朝、自宅のカーテンを開けた瞬間に誘われる銀世界に、高揚感を覚えた方も少なくないのではないのでしょうか。日本人は民族的に白色を好む傾向があり、車の人気色ランキングにもそれが表れます。ちなみに、白や灰色・黒は「無彩色」、赤や青・黄色などは「有彩色」に分類されます。「有彩色」とは、色相（色の性質）を持つ色のこと

を指し、色の三要素（色相、明度、彩度）によって区別され、特に彩度（色の鮮やかさ）を持っていることが特徴です。「無彩色」は色相や彩度を持たず、明度だけで表される色を指します。



園路の雪はほぼとけていたので、落ち葉をかきこそ踏みしめながら白樺ロッジ方面へ足を進めました。まだ赤く染まりきれない草紅葉や、夏の忘れ物のようなアラゲハンゴンソウの黄花が静かに揺れています。有彩色が徐々に舞台を降り、それをねぎらうかのように無彩色が地表を覆っていく、少し先の情景が浮かびました。



参考図書：深澤 孝也『アトリエ 色の技法』



アミハリ・バース
Vol. 6 0

イカル

科名：アトリ科
全長：約23cm
生態：地域によって、
夏鳥または冬鳥
分布：北海道、本州、
九州



落葉が進み、すっきりとした森を歩いていると、「キキコーキー」と朗らかなイカルの声が響いてきました。今年はブナをはじめ木の実の結実が良く、越冬のため暖地へ移動するイカルにとって恵まれた状況のようです。黄色く太いくちばしに、黒い仮面をかぶったようなユーモラスな姿が特徴で性格は穏やか。「和をもって貴しとなす」とされる聖徳太子の『十七条憲法』序文のモデルになったとも伝えられているように、調和を大切にす鳥として知られています。夫婦の絆も強く、歌うように鳴き交わすその様子は、まるで舞台の演者のような「鶺鴒」です。



おかげさまで今年度、開設 20 年目を迎えます！

スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓（元網張ビジターセンター主任解説員）

第四話「ビジターセンターを訪れる人たち」

毎年のようにビジターセンターへ顔を出していた人が姿を見せなくなると、また新しい人が現れる。自己紹介しあう訳でもなく名前も知らないうちに顔見知りになっていくのがビジターセンターでの対人関係です。来館者の国籍も住所も年齢も性別も勤務先も学歴も関係なし。対応内容は登山ルートの説明に始まり、難解な植物や昆虫の同定、クマへの対処法、天気予報、火山情報などは当然の事、賢治/啄木文学、観光地の見所や温泉紹介、道路とガソリンスタンド案内、地元の飲食店や宿泊施設の紹介、移住相談、時には家庭内の悩み事相談にまで及びます。答えられずに恥ずかしい思いで調べ直す日々の連続。そういう中でスタッフは鍛えられていきます。夏のシーズン中は昼食を摂る暇も無いほど来館者対応に追われますが、木枯らしが吹き始めると訪れる人の数はぐっと減ります。火が入ったペレットストーブの前でゆっくりと来館者の話に耳を傾ける、スタッフにとって至福の時間が訪れます。

地元生まれで山が大好き、80歳近くなっても現役の大工さんだったOさんの話、「昔はブナの木を『カラス止まり』と呼んだ。それ位しか役に立たないということさ」とか「戦前は親父に岩手山の『お山掛け』に連れていかれた。宗教登山以外で山に登るなんて誰も考えなかったのさ」。岩手山岳界の重鎮、Sさんからは何も無い戦後復興期、米軍払い下げの装備で岩手山の岩壁に挑んだ若き日の話を聞かせてもらいました。網張温泉の元管理人だったMさんは雪が積もると何日間も人の顔を見ることがなく久しぶりに登山者が登ってくると嬉しくてたまらなかったと話してくれました。ビジターセンターとは実際に山に登らなくなった



網張温泉の元管理人さん

高齢の方が古い山道具に囲まれて若い頃の思い出に浸ることのできる場所でもあったのです。私達が来館者数の増減を気にしていると、テラスのオオヤマザクラが咲く頃に決まって訪れたリピーターNさんから「ビジター

センターは来館者数を競う為の施設ではありません。自然に興味のある人にじっくり対応するのが本筋です」と厳しい言葉を頂いたことも忘れられません。スタッフの間で「鳥おじさん」と呼ばれている男性は全国の旅先で撮った鳥や花の画像を持参しては「これ何だ？」と難題を吹かけてきます。「良い料理店はお客さん自身が育てるもの」と聞いたことがあります。「良いビジターセンターは、ビジター自身が育てるもの」と言えるかもしれません。来館した若い



鳥おじさん

カップルに赤ちゃんが生まれ、その子が来る度に大きくなり、やがて生き物に詳しくなり、スキーが上手になっていくのを見てると、彼らの成長の過程がビジターセンターの歴史と重なります。その中の一人「ひなたくん」はキノコが大好きな小学生になってビジターセンターでキノコに関する展示発表をしてくれました。私達はこういう子どもたちを秘かに「網張キッズ」と呼んでいます。東京の「はるとくん」も初めて会った時はまだ幼くて自分より大きな虫取り網でトンボを追いかけていました。毎年家族で網張を訪れ、そのうちに妹の「なっちゃん」が生まれ、いつの間にか兄妹でビジターセンターの仕事を手伝ってくれるようになりました。「はるとくん」から「将来、ビジターセンターのようところで働くにはどんな勉強をしたらいいの？」と真剣な表情で聞かれた時は驚きました。



はると君となっちゃんとお母さん

都会の暮らししか知らない大学生、不登校の子供、作業所で働く障害者、様々な境遇の人たちが網張を訪れ、館内を見て、森を歩いて、みんな穏やかな表情になって帰っていきます。そんな時のスタッフの気持ちを京都から来た女性が見事に言い当てました。「ここで働いているといろんな人と出会うでしょう。それがあなた達の幸せなんですよね。」

網張の森 定点観察③

東北森林管理局によると今年度のブナの開花状況、結実状況ともに「並作」です。「豊作」とまではいきませんが、森を歩くとたくさんのブナの実が落ちています。豊かなめぐみが命を繋いでいきます。



定点観察の「トチノキ」

定点観察の「ブナ」

湯ノ沢橋 撮影：10/21

目線の高さで樹木の変化を観察できるおススメスポット。見下ろす清流の眺めも格別です。

9月3日に職業体験で訪れた雫石町立雫石中学校2年生4名と一緒に橋の高さを測定しました。中心部の床版から川底まで約7.6mでした。

ブナ (ブナ科)



8/14 冬芽の芽鱗がしっかり見える。葉柄や葉に見られた毛茸はあまり目立たない。



9/10 殻斗は固く閉じている。別の場所で四裂し落ちていたものを見つけた。



10/21 開いた殻斗から堅果が見える。堅果が落ちてしまったものが多い。黄葉が美しい。



11/14 葉はほとんど落ちた。たくさんの殻斗が口を開けて並んでいる。足元には堅果がたくさん落ちていた。

トチノキ (ムクロジ科)



8/1 果皮が茶色みを帯びてきた。虫食い跡のある果実が複数落ちていた。



9/14 裂開途中。種子が僅かに見える。森のあちこちにトチの実が落ちている。



10/21 葉が黄色に色づいた。樹上に果実は見当たらない。近くでツルリンドウが咲いていた。



11/14 葉がすっかり落ちた。絡みついたヤマブドウの実が目立つ。日に照らされて冬芽が輝いている。

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

9/21 「鞍掛山麓

ハイキング&写真入門



生憎の天気でしたが講師より「実はピーカンの晴の日より曇や雨は写真日和。雨ならではの出会いもあります」とのお話から始まり、雨の森に出かけました。「雨音や植物の緑の色がきれいだった」「森の中を歩くと癒される。歩きながら写真を撮るという目標ができた」参加者感想より。総勢 22 名。10/6 に「アフター写真入門」を行い、参加者が行事当日に撮影した写真を鑑賞し、講師よりアドバイスをいただきました。

10/20 ~網張ビジターセンター

開設 20 周年記念行事~

「紅葉の森さんぽ&たき火体験」



肌寒いながらよく晴れた行楽日和。鮮やかに色づいた木々の葉やブナの実等を観察しながら網張温泉キャンプ場へ。薪を並べ火を熾し、パチパチと燃える火を囲みながら焼き芋やクロモジ茶も味わいました。「たき火は自分達でやるのはハードルが高い。参加できてよかった」参加者感想より。総勢 15 名

インフォメーション

12/22(日)『冬の網張の森でクリスマス気分☆』 (スノーシューハイキング)

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合
定員:20名 ※要事前予約
参加料:大人800円 小学生以下400円
(スノーシューレンタル別途200円)

~網張ビジターセンター開設 20 周年記念行事~

1/13(月・祝)『この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク』

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合
定員:20名 ※要事前予約
参加料:大人800円 小学生400円
(スノーシューレンタル別途200円)

共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・
(一社)滝沢市観光物産協会

国立公園で楽しむ親子の自然体験

10/5「登山ガイドと登る、

うさぎ平トレッキング」



地図の見方や山で出会う動物や草花のお話等を聞きながら標高 1,100m のうさぎ平を目指しました。木々の実りが豊かで、実を集めたり帽子にブローチのように付けたりする参加者も。「食べたことのない木の実を食べたり見たりして楽しかった」「最初は雲の中。だんだん晴れてきて綺麗な景色を見ることができた」参加者感想より。総勢 17 名

11/2 森のクラフト体験

「小刀でカトラリーを作ろう！」



網張の森で伐採されたミズキ等の材を使い小刀でフォークやターナー作りに挑戦。ボランティアさんのノコギリや鉋等を使ったサポートもあり、時間内に形にすることができました。作業をしながら参加者から材や刃物、刃物のメンテナンス等についての話題も出ました。「家に帰って作業の続きをやりたと思うくらい楽しかった」参加者感想より。総勢 9 名

10/19~20

「しずくいし産業まつり」ブース出展

雫石町総合運動公園にある町営体育館内のブースに網張ビジターセンターも出展。網張の見どころやイベントの紹介、国立公園のPR等を行いました。自然素材の玩具でも楽しんでいただきました。



-現在開催中のビジターセンター企画展-

11月1日(金)~12月28日(土)

- 富山 昇 写真展 - 「厳冬の三ッ石山~八幡平」



山行や旅行などで訪ねた際に、とき折々の景色にカメラを向け、薄れる記憶をつなぎとめるため撮りためた写真の中から、今回は、網張から大松倉を越えて三ッ石山まで、大深岳周辺そして八幡平の冬景色を紹介します。無積雪期とは違った厳冬の裏岩手の風景をご覧いただければ幸いです。

- 出展者の言葉より -

●●▲ 依頼行事 ▲●●

◆ 9/25 岩手県市町村職員健康福利機構

ほがらか健康ツアー

「秋の網張の森を散策しよう」

ゲレンデウォークを楽しみました。(14名参加)



◆ 10/3 雫石町立雫石中学校2年生

職業体験

森の魅力探し、クラフト用の木の実採取等体験しました。(4名参加)



たくさんの依頼行事にも取り組みました!

◆ 10/23 雫石町立雫石中学校1年生

職場訪問 たくさんインタビューしてくれました。(4名参加)

◆ 10/24 雫石町国道46号ゆるゆるアウトドア研究会

「網張の森散策と

ツリークライミング」

紅葉の森を楽しみました。(8名参加)



◆ 11/13 「岩手県自然

保護関係職員合同現地

研修会」(43名参加)

(画像提供：岩手県自然保護課)



モモンガのつぶやき

田畑にトンボがたくさん飛び頃楽しみの一つはジョロウグモ(通称「ジョロちゃん」)を観察すること。金色の糸で作られた円形の巣の真ん中で逆さまの状態に獲物を待つジョロちゃん。秋の風が吹く頃には貫禄ある大きな体になり目立ってきます。珍しく頭が上の時があり、突然お尻から「ピッ」と巣が飛び出しました。おしっこかな?すぐにクルッと逆さまに。初雪の便りが聞かれる頃、風のあたりにくい梁の下で、複雑に張り巡らされた白い糸の中にフワフワした卵囊が見られました。ジョロちゃんはほっそりした体を覆うように寒風に耐え、2週間ほどで姿が見えなくなりました。またどこかで…。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 2,022人 ◆ 10月 1,960人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 14.2℃ ◆ 10月 8.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで)9時~17時 毎週火曜日休館
年末年始休館(12月29日~1月3日)